

国内実態調査報告書

テーマ : 金沢市における観光業に関する実態調査
ゼミ名 : 高見澤 秀幸ゼミ
調査日 : 2022年9月15日(木)～9月16日(金)
調査先 : 金沢21世紀美術館など
授業科目名 : 演習Ⅰ、演習Ⅲ
参加学生数 : 10名(3年生)、8名(4年生)

調査の趣旨(目的)

金沢は藩政時代から続く街並みや歴史的建造物が残る歴史的都市でありながら現代アートやおしゃれな工芸品ショップが並ぶなどの創造都市でもあり、様々なニーズを持った観光客が存在している。一方、厳しい財政赤字に直面している地方自治体はそのニーズに応じていくためには、効率的な政策運営が不可欠である。そこで、ゼミでは観光統計等を通じて政策面からの課題を浮き彫りにするとともに、現地訪問では施設や店舗を運営する側が直面している課題を明らかにする。それらの研究・調査を通じて、金沢を始めとした日本の地方観光都市に有用な提言を行う。

調査結果

藩政時代から続く街並みや歴史的建造物が残る歴史的都市でありながら現代アートやおしゃれな工芸品ショップが並ぶなどの創造都市でもある金沢を訪問した。具体的には、現代美術を展示している21世紀美術館の訪問と金沢の伝統工芸の中心である金箔を理解する為に金箔貼りを体験した。また、21世紀美術館と金箔貼り体験の場所において事前に用意をしていた質問をもとにインタビューを実施する事による金沢の観光産業の実態調査を行った。

その結果、やはりコロナ禍においては人々の移動が制限されていた為、観光に来る人数は減少したという意見を伺えた。特に金沢は「食」に期待をして訪れる観光客が多いという特徴から20時までの時短営業は観光客数の減少に多大な影響があったとの意見もあった。一方で、観光に来る時期については、コロナ前とコロナ禍においてはあまり差が無いという意見も伺えた。今回の実態調査により、コロナ禍は金沢の観光産業に多大な影響を与えた事を学ぶことが出来た。

